

2013. 10. 27 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2013年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

XII. ローマ書における聖化

(6) 聖い生き方—個人も、共同体も

テキスト：

「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神の憐れみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物として献げなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」(ローマ 12 : 1)

はじめに：

12-15章は、聖化の実として、恵みによって変えられた生き方(個人的かつ共同体的ホーリネス)を示す。

A. 礼拝的生活(1節)

・「そういうわけで」：

キリストを通して示された神の豊かな恵みを噛み締めながら・・・

・「供え物として捧げる」：

神への奉仕のために 燃やし尽くす=救いによって既に神のものとなったキリスト者は、自らの意思で神に自分を明け渡すことで、もう一度神のものとなる

・「聖い生きた供え物」：

神のために生きる生き方、聖霊によって聖なる者とされ、その聖さ生きる生き方を示唆している

B. 聖霊による変貌（2節）

- ・「この世と調子を合わせるな」：
周囲のパターンに自分を押し込まず、神に造り直して頂く
- ・「自分を変えなさい」（直訳＝変えられ続けなさい）：
聖霊に従いつつ変えていただく
- ・「変貌の内容」：
「栄光から栄光へと（キリストの似姿に）変貌される（2コリント3：18）
- ・「心の一新によって」：
みことばを通して、聖霊の力を頼りつつ、私たちの考え方が御心に一層近づくように、日々更新していただく

C. 互いの益のために（3-8節）

- ・「信仰の量りに応じて」：
御霊の賜物を慎み深く受け留め、決して、霊的高慢に陥らない
- ・「一つのからだには多くの器官」：
恵みによって割り当てられた仕事を果たすために、自意識過剰にならないで、むしろ自己を献げる
- ・「奉仕であれば奉仕し・・・」：
賜物を持っている個人に注目を集めないで、愛をもって人に仕える
- ・「愛には偽りがあってはならない」：
聖化とは、御霊の愛を共同体の中で実践すること。「キリストの福音は社会的宗教であり、ホーリネスとは、社会的ホーリネスである。」（ウェスレー）

